

K A T E ' 9 9 年 春商品
受容性チェック GI 結果のご報告

— アイテム別評価・傾向について —

調査概要

1 調査目的

◇'99年春、K A T E 商品・コミュニケーション要素について、ブランドターゲットの受容の傾向を明らかにする。

2 調査対象者

◇14～18歳（中学・高校生）女子より、メイクアイテムの購入・使用定着者を前提にスクリーニング実施

3 調査方法

◇グループインタビュー調査

4 調査日時・会場

A. 中学生	1998年7月6日（月）	16:30～18:30	インタビュールーム 3D
B. 高校生	1998年7月3日（金）	17:00～19:00	リーセント青山

5 調査機関

◇プランニングチームⅡ

<実査参加者>

NO.	氏名	年齢	居住地	学校名（学年）	メイクアイテム保有状況									
					リップ*	グロス	ソッドウ	ライナー	マスカラ	ファンデ	チーク	フェイスパウダー	ネイル	
A 1	木塚 優衣	14	川崎市	品川女子学園（2年）	○		○		○	○				○
A 2	阿井 芽	14	八王子市	立教女学院中学校（3年）	○	○	○	○	○					○
A 3	坪井 あずさ	15	横浜市	横浜市立谷本中学校（3年）	○	○	○		○	○				○
A 4	大沢 史子	14	三鷹市	品川女子学園（2年）	○	○	○	○	○	○	○			○
A 5	里山 桃子	14	杉並区	立教女学院中学校（3年）	○	○			○	○				○
A 6	松坂 有希子	15	横浜市	横浜市立谷本中学校（3年）	○	○	○		○	○		○		○
B 1	田鹿 牧子	16	世田谷区	鷗友学園（2年）	○	○	○	○	○	○				○
B 2	広谷 沙野夏	16	横浜市	桐光学園（2年）	○	○	○	○	○	○	○			○
B 3	梨木 恵理子	15	川崎市	県立大師高校（1年）	○	○	○	○	○	○				○
B 4	渡辺 美佳	16	品川区	東横学園（2年）	○	○	○	○	○	○				○
B 5	田中 綾	16	横浜市	桐光学園（2年）		○	○	○	○	○				○
B 6	高瀬 麻衣	15	川崎市	県立大師高校（1年）	○		○		○	○				

1 ルージュマジェル/カラーマジェルについて

◆アイテム別カラー受容の傾向

<1. ルージュマジェル>

※MA...FAよりカウント

	試用前		TOTAL	試用後		TOTAL
	中学(N=6)	高校(N=6)		中学(N=6)	高校(N=6)	
コーラルピンク	3	1	4	2	1	3
サモンピンク	3		3	2		2
ピンク	2	1	3	4	1	5
ローズ	2	1	3		1	1
パープル	1	2	3	1	3	4
ピンクパープル				1	2	3
興味ある色がない		1	1			
TOTAL	11	6	17	10	8	18

<2. カラーマジェル>

※MA...FAよりカウント

	試用前		TOTAL	試用後		TOTAL
	中学(N=6)	高校(N=6)		中学(N=6)	高校(N=6)	
リップのみ	カラー①					
	カラー②					
	カラー③	2		2		
	カラー④					
	カラー⑦	1		1		
グロスのみ	ピンク	4	4	2	1	3
	ピーチ	2	2	2	3	5
	シルバー	2	2	1		1
	ブルー	1	1	2	1	3
	ゴールド				2	2
リップ×グロス	①×グリーン				1	1
	②×シルバー		1	1		2
	②×ピンク		1	1		
	⑥×シルバー					1
	⑦×ピーチ		1	1		
興味ある色がない		3	3			
TOTAL	12	6	18	9	9	18

アイテム受容の傾向

<1. カラーマジェル>

◆試用前

- ・中学生の一部に「塗るとどんな色になるか不安」という反応があるものの、全体としては中、高生ともに良好
- ・色味は、「コーラルピンク」「サモンピンク」「ピンク」「ローズ」「パープル」に人気。「パープル」は、中高生の登校用として既に人気安定した感がある。また、ピンク系は、コスメ初心者層にとって、とりあえず可愛く見える定番色として人気がある

◆試用後

- ・中学生は「ピンク」を中心に、「コーラルピンク」「サモンピンク」に人気集中。思った以上に使い易い色味と評価された
- ・一方、高校生は「パープル」「ピンクパープル」の2色に集中。発色のナチュラル感が、普段の日常使いに適するとされ、無難な選択となった

<2. ルージュマジェル>

◆試用前

- ・中学生は、グロスの単色使い、高校生は、リップonグロスの混合色パターンに興味。リップ単体は、提示の色味が濃く感じられ、受容されない。また、高校生は、リップ、グロスとも単色使いには興味がなく、自分が魅かれるカラーが全くないとの答も半数(3名)。高校生の一歩進んだカラー嗜好が伺える
- ・色味は、中学生/グロス「ピンク」「ピーチ」、高校生はグロスの「シルバー」「ピンク」をきかせることにこだわりがあった

◆試用後

- ・中学生は、グロス単品を受容。人気色の「ピンク」「ピーチ」とともに、「ブルー」「ゴールド」のニュアンスカラーも評価。特に、夏季のクールメイク演出に適するととらえられた
- ・高校生では、グロスの「ピーチ」(単品使い)、又は、リップに重ねる「シルバー」に人気
- ・いずれも、主張しすぎない発色、ナチュラルでありながら、自分らしいニュアンスが出せることが、受容の決め手である

2 Wペンシルタイプ アイライナー

- ・中学生は、リキッドタイプライナーやリップグロスとの兼用タイプとの比較から、ペンシルタイプを使い易いと認識。シャドウと兼用できる使い勝手の点からも、高い受容性を示す。
- ・一方高校生にとっては、ペンシルタイプは既になじみのあるアイテムであり、特化した新しさ、使い易さのアピールにはつながらない。

3 コントロール マスカラ

- ・中、高生ともに、試作PKGの機能理解が早く、ボリューム調整機能を持つマスカラであることが即答された
- ・調節のパターンとしては、メイベリン式受容者3名に対し、試作（面積式）受容者8名、数値によるボリューム表示より面積による提示の方が、マスカラのボリューム感をイメージしやすい、とされた。

4 カラー マスカラ

<色味>

	中学生	高校生	TOTAL
ホワイト	3	2	5
スカイブルー	3	1	4
ブルー	1	3	4
グリーン		2	2
レッド		1	1
ライオン		2	2
TOTAL	7	11	18

- ・中学生は夏らしいメイク＝スカイブルー、ホワイトを選択
目元を明るく、目の端に涼感ニーズに集中する
- ・高校生も夏メイクとしては、ホワイト、ブルー系が定番だが、アジアンテイストメイク、秋口も意識したメイクなど、メイクに求めるニーズの多用化により、色嗜好に幅が出る

<チューブタイプの受容性>

- ・中学生を中心に、中味が飛び出る、という不安あり（中学5名／高校1名）
- ・高校生には、残量が視認しやすい、コンパクトでポーチ内で場所をとらない、等の評価はあったが、全体として不評

5 クリーミィチーク

- ・中学生には、パウダーとの比較を前提として、のびがよい、粉落ちしない、仕上がりが想像以上にサラッとしているなどの点で高い評価
- ・高校生は、試用前、ベタつき感への不安から不評だったが、試用後は、剤ののび、ベタつきのなさの点で評価を伸ばす
- ・パウダータイプに執着ある者（クリームに受容性なし）は、高校生1名のみ
- ・が、中学生・高校生では、チーク自体の保有、使用経験が定着しておらず、チークアイテムの購入習慣がない点に留意

6 ネイル

<色味>

	中学生	高校生	TOTAL
ブラッシュ	3	4	7
ピンク	3	1	4
ローズ		1	1
ブルー	2	2	4
シルバー	3		3
ホワイト	3		3
TOTAL	14	8	22

- ・中学生は、シリーズカラーが全体にバランスが取れており、色選択がしやすいことを評価。中でも、パール感のきいた「ブラッシュ」、色の割に発色効果の「シルバー」を評価
- ・高校生は中学生と逆に、シリーズカラーに統一感がない、と反応。
その中で定番カラー「ブラッシュ」の応用シーンの広さが評価され、人気が集まった